

Vol. 8

October 10, 1936

No. 79

LANSANIA  
Journal of Arachnology and  
Zoology



蘭山會機關雜誌

第8卷 第79號

昭和十一年十月十日

東京市瀧野川區 農林省農事試驗場內

蘭山會發行

目 次

岸田久吉 絶滅したエゾオホカミの學名と記  
載 . . . . . P. 129  
同 朝鮮半島及濟州島産蜱類 . . . . . P. 131

Contents

KISHIDA, K.—Scientific name and description  
of the wolf from Yeso. . . . . P. 129  
KISHIDA, K.—Notes on the Acarina—mite and  
tick, from the peninsula of Corea and the  
island of Quelpart collected in August, 1936 . P. 131

October 10, 1936

Vol. 8

LANSANIA

No. 79

Journal of Arachnology and  
Zoology

昭和十一年一月十日

蘭山會機關雜誌

第8卷 第79號

---

KISHIDA, K.—Scientific name and description of the  
wolf from Yeso.

絶滅したエゾオホカミの學名と記載

岸 田 久 吉

農林省 鳥獸調査室〔所在 東京市澁野川區農林省農事試驗場内〕  
〔昭和十一年六月二十日受領〕

I. 序 論

以前北海道に多數に居て、人文的施設の妨害として忌み嫌はれたオホカミは、開拓使の努力の結果、全滅せしめられて了つたらしい。而して其の確實な標品は國內では、今や唯2頭しか残つて居ない様である。それは北海道帝國大學附屬博物館の所藏にかかる。幸ひにもそれが成體の牝牡である。牝は明治十四年六月石狩國札幌郡豊平村で捕獲されたものである。それから、牝は少しく古くて、明治十二年八月同郡に屬する白石村で捕へられたものである。頭骨の少く共（種類査定上必須點を提供する）吻部と齒槽在る部分とは本剝製の中に包まれて居る。それを取り出して見るわけには行かぬけれ共、外から調べ得たところだけに依つて、一亞種を設けておいた。

---

此の稿は Lansania Vol. 3, No. 25, pp. 72-75 に出した英文の小稿から、同好の需のままに、大體抄譯したものである。阿部・ポロック諸氏の論には此所では全く觸れない。

## II. 記 載

*Canis lupus hattai* KISHIDA, 1931. *Lansania* Vol. 3, No. 25, pp. 73, 74.

標準和名エゾオホカミ (岸田命名 1931) 英名 Yeso Wolf.

基本標品 北大博物館所藏. ♂夏毛. 産地 札幌市 (1881 年六月捕獲).

色彩 白色がかつて居る. 顔は白い. 耳下のひげは灰白色で黒い長毛を混生して居る. 項は茶色がある. 他は白くて多少の黒い長毛及多くの茶色の毛を生じて居る. 尾は白く, 尾端は穂近くに黒茶色を帯びて居る. 爪は黒褐色である.

皮毛 胴背中部の上毛は長さ 53 mm., 下毛の方は 34 mm. 頭頂の上毛は 45 mm., 下毛は 25 mm. 位をはかる. 耳殻の内面にも長毛が密生して居る.

歯牙 上顎門歯列 37.3 mm. 門歯と犬歯の間 10.0 mm. 犬歯と前白歯の間 1.0 mm. 下顎門歯列 28.5 mm. 門歯と犬歯の間 1.0 mm. 犬歯と前白歯の間 9.5 mm.

異性基本標品 北大博物館所藏. ♀夏毛. 産地 札幌市 (1879 年八月捕獲).

色彩 上部は濃褐色, 上毛の梢は黒洗して居る. 下部は殆ど白色で, 僅かに褐黄色を帯びて居る. 其の上毛は汚白色, 下毛は淡褐色も可なり濃い方である. 吻端は黒色. 顔面は汚れた淡褐色. 頭頂と額は灰色を強く帯びて居る. 上項から背にかけては毛も長く. 色も濃い. 尾は叢状であつて, 灰黒色である. 前腕にはヤマメ同様黒條を有し. 後足の趾を被ふところの長毛は褐黄色を呈して居る.

皮毛 胴背中部の上毛は 119 mm., 下毛は 33 mm. 頭頂の上毛は 58 mm., 下毛は 20 mm 位の長さを示して居る.

外部測定 単位 mm.

性	頭 胴	尾	後 足 (爪ヲ除ク)	耳	眼間部	前吻部	後吻部	橈部	脛部
*♂	1290	400	—	115	90	136	121	220	312
♀	1200	270	250	105	76	142	122	228	290

## III. 附 記

亞種名は多年札幌に居住し且つ基本標品を管理せられた方で動物地理學上の貢獻多かつた故八田三郎博士が, 特に同地のオホカミに關心を有たれて居た事實を知つて居るので, 其の姓に因んで命じたものである.